

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年4月16日

【評価実施概要】

事業所番号	1070201635
法人名	医療法人社団 鑿光会
事業所名	グループホーム りんご
所在地	群馬県高崎市上豊岡町296-5 (電話) 027-320-1213

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大友町2-29-5
訪問調査日	

【情報提供票より】(20年3月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 16 年 6 月 1 日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	9 人 常勤 6 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 6.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り 階建ての 階 ~ 階部分
------	-------------------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	51,000 円	その他の経費(月額)	光熱水費 15,000円	
敷金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	90 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (3月20日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	0 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 88 歳	最低	76 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひぐち内科クリニック ひろかみ歯科クリニック
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは静かな住宅地にあるが、窓からは大型スーパー、飲食店等が見え、庭に大きな桜の木があり、散歩コースも季節の花を鑑賞できる等、生活や季節を感じ穏やかに過ごせる環境にある。利用者は地域の一員として、文化祭や運動会、地域防災訓練等、積極的に参加し地域との交流を図っている。管理者と職員は、生活の中で利用者の力量を發揮してもらい、調理の手伝い、盛り付け等の役割や作品を作る、ぬり絵、体操、外出等、楽しみごとを取り入れ、一人ひとりの生活にメリハリがあり楽しく生活が送れるように、話し合いながら支援に取り組んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	ホールの時計の設置の高さは低めで見やすい高さになっている。カレンダーは手作りの見やすいものになっている。入浴支援については改善課題としている。玄関の施錠については午前10時~午後4時まで見守りを行い開放する取り組みがされている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	サービス評価の意義や目的を伝え、評価項目について話し合い、職員全員で自己評価に取り組んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	定期的に開催をしており、事業所から利用者の状況、行事等の報告をし、参加者からの意見や要望を受け話し合っている。会議での意見等はサービス向上に活かしている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族等の訪問時には、話しやすい雰囲気作りに留意している。運営推進会議には、家族に参加してもらい意見や要望を聴くようにしている。苦情等の受付窓口を設置しており、意見、苦情等は運営に反映させている。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近隣者とは散歩や買い物等で挨拶や話をしたり、地域の運動会や文化祭に作品を出品、見に行っている。地域の中学生の体験学習やボランティア等受け入れて一緒に楽しんでいる。近隣者が庭の手入れ等に来訪してくれている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	事業所独自の運営理念を掲げてケア実践をしている。地域密着型サービスの意義について、全職員で話し合っているが、地域との関係性を重視した地域密着型サービスとしての理念をつくりあげていない。	○	地域の中でその人らしく生活することを支える、地域密着型サービスとしての役割を職員全員で話し合いながら、事業所独自の理念を作り上げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は採用時に運営理念を伝えている。会議や日々の振り返り等で話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣者とは散歩や買い物等で挨拶や話をしたり、地域の方と救急救命講習を一緒に受ける。地域の運動会や文化祭に作品を出品、見に行っている。地域の中学生の体験学習やボランティア等を受け入れて一緒に楽しんでいる。近隣者が庭の手入れ等に訪訪してくれている。地域の防災訓練に利用者職員は共に参加をする等交流を図っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的を伝え、評価項目について話し合い、職員全員で自己評価に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的開催をしており、事業所から利用者の状況、行事等の報告をし、参加者からの意見や要望を受け話し合っている。会議での意見等はサービス向上に活かしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護相談員の受け入れを行っている。運営推進会議以外は市の担当者で行き来する機会がもたれていない。	○	電話やファクス等だけでなく、市の担当窓口に出かける機会を作り、ホームの状況やケアサービスの取り組みを折に触れ伝え、市との関係づくりを図って行ってほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時には、利用者の日頃の様子や健康状態等について報告をしている。また電話でも様子を知らせている。「ケアピース便り」を月1回送っている。金銭面の報告も定期的に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等の訪問時には、話しやすい雰囲気づくりに留意している。運営推進会議には、家族に参加してもらい意見や要望を聴くようにしている。苦情等の受付窓口を設置しており、意見、苦情等は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動や離職は最小限に抑えるように努めている。職員が代わる場合は、管理者、職員が利用者への説明や対応の仕方等を助言しながら共に支援にあたり、利用者へのダメージを防ぐように配慮し馴染みの関係が築けるように留意している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人本部の講演会、研修会が定期的により参加をしている。事業所内では、研修報告(身体拘束や苦情対策セミナー、健康管理等)を行い職員間で話し合い共有している。交換研修等の外部研修にも参加をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス連絡協議会に加入し、管理者研修、大会で事例発表等を行い交流を図っている。系列の事業所等では、イベントに互いに参加をし交流をしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学してもらい事業所の雰囲気を見てもらいながら、よく話を聴き、状況等を確認している。入院中である場合は、面会に行き顔馴染みになるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者は人生の先輩者であるという考えを職員が共有しており、日々の中で仕来りや調理方法、生活の技等教わることが多くある。支援する側、支援される側という意識を持たず、お互い様と言う気持ちで互いに感謝の言葉を交わし、支えあう関係づくりに留意している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりの中で言葉かけを行い、把握に努めている。言葉、行動、表情などから思いや希望を推し測り、それとなく確認するようにしている。家族からも情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃のかかわりの中で思いや要望等を聴き、介護計画に反映させている。毎月モニタリングを行い、カンファレンスで職員が話し合い、気づきや意見、アイデアを反映しながら本人本位の介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月に1度と状態の変化に応じて実施している。担当者会議で職員が記録する利用者の状態変化、状況等を話し合い、本人、家族等に説明し意向や要望を確認しながら現状に即した新たな計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の希望や状況に応じて、通院、送迎、買い物等の必要な支援は柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族が希望するかかりつけ医となっている。また、基本的には家族同行の受診となっているが、本人、家族の状況に合わせて、柔軟に支援をしている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に重度化や終末期に向けた方針の説明を行い、同意書を作成をしている。状態に応じて、随時意向を確認しながら納得の行く支援をするようにしている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけをしないように留意している。個人情報の管理には注意している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態やその時の気持ちを大切にしながら、買い物や散歩等、本人の思いに配慮しながら柔軟に対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき、切る、盛り付け、後片付け等を利用者と職員は共に行い、職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事ができるよう雰囲気づくりも大切にしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回、午後に入浴支援を決め行っている。時には利用者同士が誘い合い楽しく入浴をしている。足浴等も行っている。	○	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、本人や家族等から一人ひとりの習慣や希望を聴いて、相談しながら個別に合った入浴の支援を行ってほしい。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜の皮むき、切る、盛り付け、片付け、掃除、裁縫(雑巾や布巾等)、洗濯物干す、畳む、ぬり絵、季節の花見、外食、ドライブ等で役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買い物、ドライブ、季節の花見、庭で過ごす等、利用者が戸外に出て楽しみながら外気に触れる機会を支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関をかけずに、職員は見守りを行い安全面に配慮し、自由な暮らしを支えるようにしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得て、年2回避難訓練、消火訓練を利用者と職員は一緒に行っている。また、地域の防災訓練にも参加をしている。地域の方の協力も運営推進会議等で依頼している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、栄養バランス等は全員記録し、水分量については水分量の少ない利用者のみ記録をし職員は情報を共有している。水分量は全員の記録は取っていない。	○	利用者一人ひとりが一日全体で、食事量、水分量などがどの程度とれているのか、凡その量を職員全員で記録を取り情報を共有するようにしてほしい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	庭にはベンチが設置されており、玄関は季節の花が生けられたり、観葉植物が置かれている。ホールの壁には行事の写真や利用者と職員の製作した切り絵の作品、ぬり絵等が飾られている。ソファ等も設置されており思い思いの場所で過ごせる環境に配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理ダンス、テレビ、椅子とテーブル、衣装箱、ぬいぐるみ、人形、家族との写真等が持ち込まれおり、一人ひとりが安心して過ごせる環境となっているように見受けられた。		